

胃がんの一番の原因がピロリ菌

ピロリ菌（ヘリコバクター・ピロリ）は、それ自体が症状を起こすわけではありませんが、胃の中に長く住み続けるとピロリ菌感染胃炎を発症します。その一部で胃潰瘍や十二指腸潰瘍を発症したり、萎縮性胃炎へ進行することで胃がんを発症しやすくなります。

特に日本では、胃がん患者の約99%以上にピロリ菌感染が関わっています。胃がんを発症するかどうかは、ピロリ菌の感染に早く気づくかどうか、また感染している場合は除菌治療が早い段階で行えるかどうかが重要となります。

ピロリ菌は、不衛生な水や食べ物の中に存在しています。井戸水を飲んだことがある方、ピロリ菌感染している人から食べ物を口移して摂取したことがある方、ぜひ一度は検査を受けてみましょう。



- ピロリ菌の検査は各種ありますが、**当健診センターで導入している検査**は、下記の通りとなります。検査は**完全予約制**です。ご希望の方は、お早めにご予約ください。

尿素呼気試験	<p>検査用の薬を服用し、服用前後の自分の吐いた息(呼気)を調べて、現在胃内に生息するピロリ菌の有無を検査します。</p>	精度 最も高い
	<p>次に該当される方は、検査結果に影響がある為、ご遠慮いただいています</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶▶ 胃を切除したことがある。（胃内視鏡検査での粘膜切除手術は除く） ▶▶ 抗生物質を服用中、もしくは過去4週間前以内に服用したことがある。 ▶▶ 胃酸分泌抑制剤（プロトンポンプ阻害剤：PPI / H2ブロッカー）を服用中、もしくは過去2ヶ月前以内に服用したことがある。 <p>尿素呼気試験を受けるにあたっての注意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶▶ 6時間以上の絶飲食と禁煙が必要です。 ▶▶ 胃部X線検査 及び 胃内視鏡検査 と同日に実施することはできません。 ▶▶ 妊娠中、または授乳中の方はできません。 ▶▶ お薬を服用中の方は、薬剤情報を必ずご持参ください。 ▶▶ ピロリ菌の除菌治療をされた方で、除菌後の判定をご希望の方は、治療を受けられた病院で検査を受けられることをおすすめします。 	
胃がんリスク層別化検査	<p>ピロリ菌に感染している場合に作られる抗体の有無を血液検査で調べるとともに、胃粘膜より分泌される2種類のペプシノゲン(酵素)の値の比から、胃の萎縮の度合いを判定し、胃がんになる危険性がどれくらいなのかを、ABC Dの4段階で評価する検査です。</p> <p>血液検査で調べることができる最も簡単な方法です。</p>	精度 高い
	<p>次に該当される方は、検査結果に影響がある為、ご遠慮いただいています</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶▶ 胃を切除したことがある。（胃内視鏡検査での粘膜切除手術は除く） ▶▶ ピロリ菌の除菌をしたことがある。（除菌後の判定に適していないため） ▶▶ 潰瘍等で治療中である。 ▶▶ 医師から慢性腎不全といわれている。 ▶▶ 胃酸分泌抑制剤（プロトンポンプ阻害剤：PPI）を服用中、もしくは過去2ヶ月前以内に服用したことがある。 	

※ **偽陽性**（ピロリ菌に感染していなくても陽性となることがあり、現在感染しているかどうかは確定できない）の可能性があります。

- 除菌治療をしてピロリ菌がないことが確認できている場合は、基本的に再度検査は必要ありません。
- 「ABC検診」及び「尿素呼気試験」は、胃や十二指腸の病気を直接診断するものではありません。胃の状態を確認する為にも、年1回は上部消化管検査(内視鏡又はX線検査)を受けられることをお勧めします。